

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472100595		
法人名	医療法人 二豊会		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	大分県国東市国見町小熊毛2695-1		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町村受理日	令和2年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和2年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.利用者様が衛生的な環境で毎日笑顔で過ごせるよう、一人ひとりの生活スタイルを大事にして支援しています。又、利用者さま・ご家族様との信頼関係を大事にしています。
 2.職員の教育と育成(年間目標を職員一人一人と話し合いの上に計画し、資格取得に向け、資金面や働きながら学べる体制づくりに令和元年より取り組んでいます。)

・海辺の静かな場所に建っており、天気の良い日は光や海風が心地良く、地域で長く生活してきた利用者の馴染みの環境となっている。
 ・利用者はこれまでの生活のスタイルを大切にされ、家族や地域とのつながりが途切れないよう配慮されている。
 ・新しい管理者、施設長のもとで、グループホームのケアの向上を目指して努力をしている。また、職員育成として、資格の取得のための研修や他の施設への見学を企画している。
 ・働きやすい職場にするよう、管理者と新旧職員が意見の言いやすい関係を作りあげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、その日のスタッフが全員揃い、声に出して唱和し、内容を共有し実践しています。(理念とは自ら実践し、自らの仕事・業務をきちんとやることを毎朝の理念唱和で再確認しております)	一人ひとりの尊厳を大切に、笑顔と安心の日常生活が送れるように職員が支援している。毎朝の申し送りで理念が実践できているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として小熊毛地区の組員に参加。地区の行事を把握し、出来ることは参加させていただいております。毎月の回覧板にて情報の共有をしております。	グループホームをもっと知ってもらいたいと地域の組に参加し、運動会や食事会、子供のレクリエーションの手伝いなども行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアさん来所時の近隣住民の皆様の声掛けや「お接待」を出したり、小学生、保育園生との交流をし認知症の人の理解や支援の方法をふれあいの中から学んでいたいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催で地区区長、民生委員、老人会会長、利用者代表、市・介護保険係、二豊会代表に出席いただき、意見交換し、年に一度は昼食も試食していただき、サービス向上に活かしています。	今年はコロナの影響で、7月9月は実施できなかったが、代わりに文書で事業内容を報告し、写真を多くしてわかりやすい内容にした。区長から頑張っているから大丈夫ですねと声をかけてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険係との連携を常に持ち、アドバイスを受けております。くにさき包括支援センター職員の方や市・町ケアマネ会議等を通じ協力関係を築く努力をしています。	市の介護保険係と常に連絡を取り、月に一度、国見の支所で会議を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の法人内での身体拘束廃止委員会の内容をもとに職員会議で話し合い確認共有、実施していましたが、令和1年より施設内に安全対策委員会を設置、施設長が委員長となり身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	法人の身体拘束廃止委員会での決定や内容を職員会議で話し合い、確認と実践の振り返りを行っている。外に出たい人がいる場合は夜でも一緒に付き合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年の市の研修会に参加し、職員会議の中で話し合い共有しています。また何が虐待になるのか施設内の勉強会で随時確認しあっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する研修に毎年参加し、職員会議において勉強会を実施していますが、今後は介護職員全員に交代で研修参加を義務づける予定をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定時に本人・ご家族様等へ説明を詳細にしています。疑問等はその場で理解していただけるよう説明をしています。又看取り等についても説明を行い、事前確認書をもってまいります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での利用者代表の方の意見や、運営推進会議録を各利用者ご家族様に送信し、面会時や電話等で要望や意見をきき、施設運営に反映させていただいております。	利用者家族から災害避難についての質問があり、災害対策の備えを回答している。また、主治医を変えたいという相談があった時、希望に沿えるように取り組んだ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の職員会議や、毎夕の申し送り時、常日頃のショートミーティングでの職員の意見を尊重し、運営に反映させております。	勤務体制への職員意見はできるだけ取り入れるようにしており、食事は利用者と一緒に食べるがそれは勤務時間であるとの認定や、その後の休憩は1時間きちんと買って買い物に外出も可という改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務関係、給与は医療法人二豊会で管理されております。施設内の職場環境は職員が働きやすく、向上心が持てるよう、常に研修会の情報を提供し、職員の研修会参加ができるよう勤務時間の調整を心がけております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員一人ひとりの年間目標をきき、出来る限りの研修に参加できるよう勤務調整をしています。今年度は介護福祉士資格に3名、社会福祉士資格に1名挑戦します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員より他社事業所見学希望あり、受け入り先等の検討を進めておりますが、今年度はコロナ対策のため、施設内の勉強会に力を入れてます。市主催の同業者との集まりには職員を必ず1名参加できる工夫もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談を受け付けたときより、必ずご本人様と話す機会をご家族様より頂、直接お話を聞くよう努力しています。また必ず1度は自宅訪問をし、今までの過ごされていた環境をつかむ工夫をし、入所前に施設訪問、1日体験等を取り入れております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談を受け付けた時より、出来る限りご家族様が困っていること、不安なこと要望等にきき、関係づくりに努めています。又入所後はご家族様に毎日の様子を電話にてお知らせしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後一か月はお互いの観察期間ととらえており、職員の意見も取り入れ、再度何がサービスに必要なか再検討後、本プランを作成し利用者、ご家族了解の上でサービスを提供させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設＝自宅と思っただけのよう、家庭的な雰囲気、本人の意思を尊重してサービスを提供し、教えていただけることは学びながら、ともに毎日ゆっくりした本人のペースで支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節ごとの衣類や布団類の入れ替え、水分が取れない時のジュース類の補給、不穏時の対応等、出来る限り細やかな連絡を家族と取りながら、本人が安らげるようにご家族に協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会、外泊、行事等への参加のご案内や近隣の方たちへのお誘いを心がけ支援に努めています。又地区のふれあいサロン等へも参加し、知り合いの方々と触れ合っております。	家族への声掛けは定期的にし、コロナ禍以前は面会や外出、外泊の勧めも行っていた。玄関先や廊下からの面会となるが、謝絶ということはしていない。近所のふれあいサロンも閉鎖しており、現在は行けない状態。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの状態を常に観察し、作品作りやゲーム等での座る場所にも配慮しています。自分たちでできる範囲で、利用者様同士お互いを助け合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後もご家族様の相談の電話に応じたり、関連施設に入所された方は、訪問したりしております。又永眠された場合は連絡をいただきますので、出来る対応をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えられる方の場合、選挙の投票にお連れしたり、図書館にお連れしたり、地区の支えあいの会に参加したり、散歩の好きな方は散歩をする等意向に沿えるよう努力しています。	利用者の希望があればそこに出かけたり、散歩したり、職員とのふれあいの時間をできるだけ長くとして、思いや意向をくみ取ること	に配慮している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前担当の介護支援専門員様からの情報や、ご家族様からの情報、入院中の情報、他施設での情報等できる限りの情報収集に努め、これまでの生活歴や暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を重視し、少しでも変と感じたことは、全介護職で情報を共有し、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員等でモニタリングし、職員会議で話し合い、介護計画に反映させております。	担当制を敷いており、人数を決めて毎週モニタリングを行い、本人と職員で話し合っている。家族の意見も取り入れている。長期、短期ともに目標をより具体的な内容にすることを期待する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録や、ミーティングを中心に職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しをし、介護技術の勉強会も実施し見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望による主治医の変更や、看取り希望のご家族様に対応できるように、少しずつですが、訪問看護さんの導入や希望施設への移転等にも取り組み始めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	くにさき地域包括ケア多職種連携マニュアル等により、本人に必要な歯科医療の提供や、訪問看護の利用等、少しずつですが本人・ご家族様に安心していただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者全員が母体病院が主治医でしたが、うち1名がご家族様の希望により、主治医を変更し、納得していただき、訪問診療を開始しました。今後も本人・ご家族様と信頼関係を築きながら支援していきます。	入居の際に説明し、主治医を母体法人の医師に代えてもらった人が1人いたが、その後、前の主治医という希望があり、元の主治医に変更してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の職員に看護師がいない、定期受診時には施設長か管理者が同行することが多く、看護職との協働はできておりませんが、9月より主治医変更した利用者様もおり少しずつ支援が受けられる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人母体病院と連携を常に取り、定期受診以外でも主治医との連携を密にしております。又病院スタッフとも連携を密に取り合っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方については入所時に要望を聞き、話し合いを行い承諾を得ている。又急変時等の対応については随時意向を確認し、母体医療法人の医師などと連携し、柔軟な対応をしている。	看護師がいないし、体制が整わないのでグループホームでの看取りは行わない方針だが、母体病院の医師とは終末期にしっかりと連携を取り、その都度、家族とは話し合いを行って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は施設長、管理者に連絡を取り、到着するまでの間、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域での防災訓練に常に参加するとともに、常に避難場所まで散歩しています。又国見病院への避難も実践しており、回数を追うごとに災害時必要なことを全職員で共有し、地域の人との協力体制もできております。	海岸端にあり、台風や津波への避難は常に想定した防災訓練をしている。台風時には国見病院へ車で避難し近所の小高い神社まで歩く訓練なども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの理解度にあつた声掛けを行い誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしております。	プライバシー保護のため、書類の保管や面会簿は一人ずつにしている。声掛けについては職員に研修を行い、尊厳に配慮するよう話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日や散髪、外出希望等をきき、自己決定できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、ゲーム、作品作り、算数問題、ぬりえ、散歩等を提案し、一人ひとりに対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着たい洋服を選んだりお化粧をしたり、気に入るまで着替えたりとおしゃれをしております。又ご家族様に協力いただき好きな色のお洋服の準備をしていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備ができる利用者様がいませんが、片付けは手伝ってくれます。食事は行事ごとに職員の方の持ち込みや、ご家族の協力もあり、季節ものを楽しんで食べていただいております。	一日1400カロリーと水分1200ccを最低摂れるように一人ひとりの状態をチェックしている。調理を手伝ったりはできないが、下ごしらえや片付けは手伝ってもらえて、職員の自家製の持参のものを皆で喜んで食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士が献立を立てており、献立に添い食事の提供をしております。食事や水分摂取量は毎日確認し、水分摂取量に不足するときはご家族に協力をお願いし飲めるものを持参いただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、自分でできない部分のみ支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレにて排泄しております。夜間帯は時間を決め声掛けをし、トイレ誘導しております。おむつ対応は熱発時の時や、体調不良時のみです。	日中のトイレ誘導により排泄用品をできるだけ使わないで済むように図っており、夜間も時間を見て誘導を行っている。安眠妨害にならないよう気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量や水分摂取量の管理をしています。又飲食物の工夫もしながら便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日は決めておりますが、ご本人の体調や希望により柔軟に変更しております。又外出や、外泊の場合の配慮もしております。	入浴の準備は毎日しており、人数を決めて数人が入っている。一週間に2回が基本だが、汚染があったり希望があれば入ってもらう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状況に合わせて昼寝をしていただいたり、自由に過ごしていただけるよう配慮しています。又就寝、消灯時間は21時と決めておりますが、それまでは各自、好きな場所で自由に過ごしていただけるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員全員が服薬ファイルで薬剤の内容を把握しており、服薬時も名前・日時の確認をしながら支援しています。症状の変化については施設長に報告、施設長は院長に確認後、指示をもらい全職員と指示を共有しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方は食事の後片付けや、掃除、庭の落ち葉掃き、洗濯物たたみ等に参加してくれます。又職員と一緒にチェストの整理等行っております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望での外出、外泊支援。季節のお花見、地区の行事等の参加。運動会の応援や図書館の利用、避難場所までの散歩や近くの猫の観察等、出来る限り個々人の希望に添った外出支援をしております。	コロナ禍以前は、外出や家族のもとへの外泊をよく行っていたが、現在は自粛している。しかし、近所への散歩はお天気の日毎日続けていて1時間近くに及ぶこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族管理となっております。ご本人の欲しいものはご家族に連絡、了承後、ご本人の買い物支援をしております。(例、衣類・写真等)またご家族様に持参いただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年に2~3回ご家族にはがきを出しております。ご家族様より喜んでもらっております。又電話は本人がかけたい時にかけてもらっております。ご家族様からの電話は消灯時間まで受け付けております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはボランティアさんによる季節の花が常に活けており、利用者様に喜んでもらっております。又日本古来の行事は大切に、関連グッズを共同スペースに飾り、利用者様の作品等を展示しており好きな場所で休め、皆で会話が弾む工夫をしています。	間口の広い玄関に廊下が続き、季節の花や手作りの品が飾られ、置かれた応接セットで休むこともできる。リビングの窓からは向かい側にある神社の古木が広がり、四季折々の眺めが見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには長椅子やソファを設置、各個人部屋には椅子を置き、お互いの部屋を訪問して話したり、好きな場所でまとまって会話を楽しめる工夫をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたイスやテレビ、衣類入れ等を持参いただき、また自分の作品を飾ったりして居心地よく過ごせるよう工夫しております。	使い慣れた家具を置き、テレビなども自室でも見られるよう静かな落ち着いた空間になっている。掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は安全第一を考え、一人ひとりにあった見守り支援ができる体制づくりに努力しています。できる限りの自立した生活ができるよう工夫しております。		